

箕輪町郷土博物館だより

令和6年 冬号

おもちのお話



昔から行事のある日（ハレの日）にはおもちを食べてきました。

おもちはお米をついて作るので、長く伸びて切れにくいことから縁

起がいいと言われ食べられてきました。お正月の鏡餅は昔の鏡

が丸かったことから鏡餅と呼ばれ、重ねる事で福や

徳が重なって縁起がいいと伝えられています。満1歳の誕生日に

おもちを背負わせて一生食べ物に困らないようにと願いを込め

たりと、昔からハレの日には欠かせない食べ物として今まで伝えられています。



みのわを知ろう

塩が高い安い

漬物は約1200年前から食べられていました。

野菜を漬けておけばおかずに困らないため、昔は

菜っ葉を一夜漬けにしてお茶を飲んだり、ご飯のおかずにしていました。

各家庭で漬け方がちがい、上手につかると食欲をそそるほどおいしそう

という意味合いで「畑まぐろ」とも言っていたようです。

漬けるのに慣れていない人は甘く漬かった時に「塩が高かったなあ」と

冗談で、逆に塩辛いと「安かったから余計に塩を入れてしまったなあ」

と、これまた冗談を言いながらおもしろおかしく、お茶の時間も楽しく過

ごしていたようです。※「畑まぐろ」がおいしすぎても塩分の取りすぎには注意しましょうね。



小川守人著『箕輪の器々』より

れいわ ねんど ほんど ほんぶつかん ぶんか ぶんか せんたー せん
令和5年度 博物館in文化センター展

みのわ ふゆ なに
箕輪の冬って何がある？

● **会 期** 令和6年2月10日(土)～3月3日(日)

● **会 場** 町文化センター 展示コーナー



● **開館時間** 9:00～20:00

● **休館日** 2月12日(月/振休)、23日(金/祝日)

● **入館料** 無料

● **箕輪の冬の暮らしを紹介します!!**
寒い冬の暮らしの中でも、温かみのある生活を
送っていたかつての暮らしを、写真や資料で
紹介します。土日も見ることが出来ますから
お散歩がてら文化センターに見に来てください!!

◎ **展示内容**

① ちよつと昔の箕輪の冬景色

② 『箕輪の磊々』にみる冬

③ 今に伝わる冬の伝統行事





北小河内中村の念仏講

ねんぶつこう
念仏講とは、ちく しゅうかいじょ あつ
地区の集会所などに集まり、
ねんぶつ とな おお じゅず まわ びょうき
念仏を唱えながら大きな数珠を回して病気や
さいがい あ けんこう ねが ぎょう
災害に遭わず健康でいられることなどを願う行
じ 事です。き で き おお たま こ ちい
木で出来ている大きな珠1個と小さな
たま こ なが
珠850個ぐらいがついている長さ10メートルほ
どのおおじゅず かね たいこ おと
の大数珠を鉦と太鼓の音にあわせて「なむあみ
だぶつ、なむあみだぶつ」ととなえながら、ほんどけい
まわ まわ とちゅうおお たま
計廻りに回します。途中大きな珠がきたらおでこ
ねが こと
にかざして願い事をします。

はくぶつかん ぶんか てん おおじゅず み
※ 博物館in文化センター展では他の地域の大数珠を見ることができますよ。

??? 箕輪学クイズに挑戦 ???



(1) 箕輪進修高校の周辺にある遺跡からは、縄文時代の建物の柱あとがみつかっています。

この大きな柱は直径何センチだったでしょう？

- ① 100cm ② 150cm ③ 200cm

(2) 西天竜の水を田んぼに公平に入れるために作られた水槽の形は上から見ると？

- ① ■ しかく ② ● まる ③ ▲ さんかく



(3) 箕輪の方言で「壁にうつつく」はどういうこと？

- ① ぶつかった ② はりついた ③ よりかかった

○ こたえ ○

(1) ① 木下の【上の林遺跡】からは直径約100cmの柱のあとがみつかりました。

大きな柱はどうやって建てたんでしょうね？！



まるが柱の跡

(2) ② 【円筒分水槽】と言う上から見ると丸い形の

水槽です。水を下から吹き出させて公平に水を

流す装置です。今でも見ることができます。



(3) ③ よりかかること。「うっかかる」とも言います。

何気なく使っている言葉が方言だったんだと気付く事があるかも！

お問い合わせは、博物館まで TEL 79-4860

発行元：箕輪町郷土博物館